

【広島戦後71年特集…広島の魅力徹底取材】

広島が世界に誇る企業

マツダに ZOOM ZOOM!

～チャレンジ精神が生んだ歴史～

マツダは、1920年にコルク製造の会社として設立。1931年には、3輪トラックの生産を開始する。その後終戦を迎え、3輪トラックの生産輸出を再開。1957年には、自動車販売台数が20万台を超える。次に、軽自動車を生産販売し、1989年には、初代ロードスターを販売する。2002年には、「Zoom-Zoom(ズーム・ズーム)」を展開。現在も受け継がれ進化を遂げている「Zoom-Zoom」とは、全世界におけるマツダブランド強化の一環として新たに設定したブランドメッセージ。子供がクルマの走行音を表す際に使う「ブーブー」の英語版で、おもちゃのクルマに夢中になった子供の頃の「動くものに対する感動」を表現している。

2004年には「ロードスター」が生産累計70万台を達成。2人乗り小型オープンスポーツカーとして生産台数世界一の記録を更新した。マツダのたゆまぬチャレンジ精神があったからこそその成果だ。

どんな困難に対しても、一丸となり創意工夫することで困難を乗り越えてきた不屈の企業魂。諦めない心、そして夢を追いかける姿勢がカッコいい。

戦後71年「ヒロシマ」から平和の象徴「広島」へ 広島の青空の下 真っ赤なロードスターが 運ぶ幸せ

焼け野原と化した71年前。広島の人々は復興とともに、未来への夢を創り出した。諦めず、何事にもチャレンジする精神を、広島の大企業『マツダ』から学ぼう。
今年来館者が急増中、人気急上昇のマツダミュージアムにZOOMZOOM!!



マツダミュージアム ロビー中央にあるロードスター

「魂動」見る人の魂を揺さぶるデザインに

マツダを代表するオープンカー「ロードスター」チーフデザイナーの中山雅さんに熱い思いを聞いた。

マツダのデザインテーマは「魂動」。お客様が車を見た時に、意識せず味覚などと同じように、カッコいいと思ってもらいたい、という思いを込めてデザインしている。

「魂動」と中山さん。今シーズン、優勝を果たした広島カープの「赤」が広島の街だけでなく、マツダのシンボルカラーとなっている。

戦後復興の希望を背負い、広島の人々とともに歩んできたマツダ。平和に広がる青空の下、真っ赤なロードスターは今日も未来へのさらなる夢を乗せて広島の街を駆けている。デザインだけでなく「人馬一体」の運転する楽しさを追及した操作性が自慢だ。

その技術は、ビルディングブロック戦略で開発されている。



ロードスターについて説明する中山さん

世界中の技術者たちが研究しても、実用化には至らなかったロータリーエンジンを開発し、一九六七年発売のコスモスポーツに搭載、実用化に成功。その後、ロータリーエンジンを搭載した車がエンジンの耐久性や効率性が試される世界三大過酷

夢と言われた ロータリーエンジン そして次世代エンジンへ

世界の中にも期待大の次世代燃料の水素を使用した水素ロータリーエンジンを開発し、環境にも配慮した開発が進められている。(木)

自動車の基本の「ベース技術」に「電気デバイス」を積み上げていくという考え方で、技術を分けて開発することで迅速な対応が可能となった。

エンジンの燃費を高めたり車体の軽量化などの新世代ベース技術「SKYACTIV技術」。新型のロードスターにはこれらがフル搭載されている。現在のガソリンはエネルギーの30%しか使われておらず、考え方を換えればエネルギーの70%を損失している。そこで、基本設計をすべてゼロから見直して開発。より燃費・パワー・排ガス性能を飛躍的に高めた高効率エンジンの開発に成功した。

「走る喜び」と「優れた環境・安全性」を高次元で両立したマツダの車は、世界に認められ、多くのドライバー達に高い評価を受けた。そして、現在もさらなる進化を遂げている。

ROADSTER ダブル受賞
2016年
「ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」と
「ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」をダブル受賞の快挙達成!



←水素エンジン搭載車

作成されたクレイモデル↓



その他にも期待大の次世代燃料の水素を使用した水素ロータリーエンジンを開発し、環境にも配慮した開発が進められている。(木)

広島のお好み焼 そしてオタフクソース

広島のお好み焼は、戦後のあまり食べ物のない時代に復興の中で誕生した食べ物だ。関西の混ぜるお好み焼とは違い、薄い生地を焼き、キャベツや豚肉などの具材を重ね焼き作られるのが、広島独特のお好み焼きだ。



↑キャベツ大盛り「八昌」のお好み焼き

オタフクソース株式会社は1922年に酒・醤油の卸売業「佐々木商店」として創業された。1938年には、醸造酢の製造を開始しブランド名を「お多福酢」とした。戦後にこれからは洋食だと言われウスターソースを作り始める。しかし当時のソースは「お好み焼にかけると流れてしまう」とのお好み焼屋からの要望で、試行錯誤の結果、甘くてとろみのあるお好み焼ソースが完成した。ソースの製造は後発だったが、市場になかったお好み焼ソースを作ることで全国区に知られる有名企業となった。

1975年に、オタフクソース株式会社に社名変更、現在では、アメリカに進出し、「OtaJoy」というブランドで展開され、海外の方にも大好評の日本食のひとつとなっている。(聖)

1面のクイズ 答え

『車のボディ』でした!! (マツダミュージアムの展示より)





↑本番直前の澤田君、三日月知事、富永君

びわこ放送で三日月知事と生共演!

澤田惇平 (じゅんぺい) 君(3-2)

富永大樹 (だいき) 君(3-3)

8月7日19時からのびわこ放送「高校生が語る滋賀の魅力〜本気で考えてみ〜ひん?」に、滋賀県の高中生22名が、ムーディ勝山さん(滋賀県出身芸人)らと共演した。

滋賀の農業・産業など、身近にありながらも気づいていない滋賀の魅力伝えるとともに、三日月知事の軽快なトークで高校生のリアルな発言が引き出された。その現場風景をお伝えしよう。



収録当日は17時に大津びわこの本社スタジオに集合。本校のほか、彦根東高校や、八日市高校、湖南農業高校など11校から各2名の学校代表が集まった。打ち合わせと前撮りを終えると、楽屋弁当を食べ、いざリハーサルへ。担当プロデューサーや司会者、三日月知事が、高校生の緊張をほぐそうとしてくれる。いよいよ生放送本番。クイズや名産紹介を交え、高校生が知事と意見を交わす。

約2時間の収録を終え、「映像が電波に乗るのを想像すると、最終緊張が止まらなかつた」と語る澤田君。けれど、「普段交流のない他校生や知事、地場産業の方々と話すことができ非常に良い経験が出来た」と、微笑みながら答えてくれた。



↑緊張の面持ちでフリップを持つ澤田君



富永君は「三日月知事が振ってくれたことに対して答えることが出来たことが嬉しかった」と話しておけばよかった。収録現場は、みんながみんな「本気で考えてみ〜ひん?」という特殊な環境で、自分の想いを正確かつ的確に伝えることが出来た。今更ながらもっと話しておけばよかった。収録現場は、みんながみんな「本気で考えてみ〜ひん?」という特殊な環境で、自分の想いを正確かつ的確に伝えることが出来た。

八工探検隊

八工で不思議に思ったこと、あれ?これなんだろう?と思ったことはありませんか?八工にまつわる謎を新聞部八工探検隊がお調べします!

その1 3階物理室窓際について謎のカーブミラー



美術室の後方流し台の窓から見えるカーブミラー。3階にカーブミラー?何のためについているの?

皆さんは、その存在を知っていましたか? いざ調査!

・・・多くの先生方に聞いたのですが、カーブミラーの存在自体を知らない方ばかり。

ですが!「何故3階部分にカーブミラーがあるの?」という吉田先生が抱える長年の謎。八工探検隊が真相を解明する事ができました!

真相にたどり着く前に、吉田先生の予想をご紹介します。「カーブミラー横にある煙突みたいなパイプが複雑なもので、その周囲にある機械の裏側とかを見るためのものではないか」また「何か点検に使うのかも」もしくは「理科室で何かに使うのかも・・・」等々。かなり悩んでおられます。(´-`)

そこで!八工探検隊による真相解明!! 前任の美術の藤本裕之先生に電話取材!お聞きできました! 「鳩の被害が酷かった10年ほど前、理科の先生が『鳩除け』のために鏡を設置した」とのことです。普通の鏡ではなく、形状がカーブミラーだったため、吉田先生の謎は余計に深まっていったようです。このカーブミラーのおかげで現在は鳩の糞害はありません。効果てきめん!さすが生物の生態を熟知した理科の先生の為せる技です。

その2 夏休み中の可愛い訪問者 あなたは見ましたか?

夏休み中、中庭やテニスコートに茶色い野うさぎが来ていたことをご存知ですか?

可愛い姿をカメラに納めた業務員の今若さん。「ちょっと痩せてる?」と萬田さんに相談したところ、萬田さんがニンジンやキャベツを用意してくれた。すばしっこく、用心深い野うさぎだが、お水やエサをもらって、嬉しそうに食べていた。

残念ながら2学期に入ってからの目撃情報はない。どこから来ていたのかは謎のまま。また八工に来てね!今後目撃された方は、新聞部まで!



↑木の下でひと休み 今若さん提供

今回の収録を通して、びわこ放送の撮影現場を見られたことも収穫だ。知事と生で意見を交わせる機会は、高校生という立場ではなかなかないので、びわこ放送さんに感謝である。ちなみに放送の録画については、二人とも「恥ずかしいのでまだ見てません!」とのこと。

言葉にするのは、難しかったようだ。共演者に感じた印象はというと、三日月知事は話しやすくて気さくな面白い方。ムーディ勝山さんはとても優しく、滋賀から上京を決めた時の貴重な話も聞かせてくれた。次第に他校生達とも打ち解けて、ワイワイと和やかに収録は進んでいった。

八工のNEWふえいす

英語科 生徒指導課 佐伯 亮平 先生



九月一日から本校に赴任された佐伯先生を徹底紹介。とっても気さくな笑顔が満開です。

佐伯先生は、第二種電気工事士、二級小型船舶、宅建士、フォークリフトなど様々な資格を持つおられる。趣味はサーフィン、カヌーなど自然が大好きなアクティブな方である。また、大の犬好き。保護してきたダックスフンドを2匹飼っておられる。名前は「来夏(らいか)」と「海琉(かいりゅう)」。夏の間、昼間はワゴンちゃんのために留守宅にエアコンをつけ、仕事に出かける。そしてクーラー嫌いの佐伯先生が帰宅されると、エアコンをぶちゅんと切り窓を開放し、ワンちゃんと戯れるのが日課だそう。

「やっぱりかっこいい」から。福井や静岡までそのときの気分で行ったり、仲間で行くという。が、最近はおまわり行けていなくてムズムズしていると言っていた。新婚旅行で行ったバリ島では、サーフィンで大失敗をした。奥様に2時間だけの約束でサーフィンに出かけた佐伯先生。結局5時間波に乗り、しかもはめたての結婚指輪をなくしたそう。「怒られました」と語ってくれた。将来的には海沿いに住みかフェをやりたいという、日焼けした肌に笑顔が似合う優しい先生だ。冬は真っ白になっってくるらしいので要観察! (聖)